

パイロットプロジェクトについて

添付資料

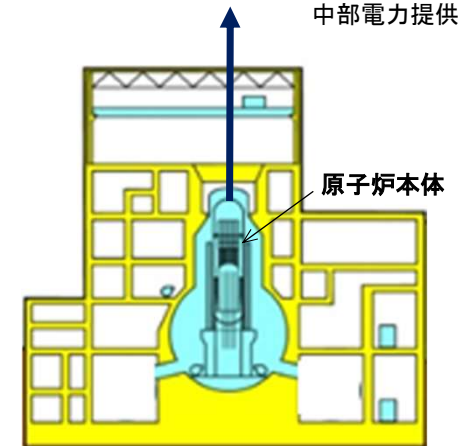
- プロジェクトメンバーは、NuRO、電力10社※、電気事業連合会およびATENA

※ 北海道電力、東北電力、東京電力HD、中部電力、北陸電力、関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、日本原子力発電

- プロジェクトは、原子炉本体（炉内構造物、原子炉圧力容器）の解体工程のうち、切断から保管までを対象とする。
- プロジェクトにおいて電力共通課題への対応策を検討し、解体の詳細計画に反映する。
- プロジェクトにおける検討結果は浜岡2号機の解体工事に適用して、課題解決策の妥当性を検証する。
- プロジェクトの成果は、改善を加えながら後続プラントの廃炉の標準工程見直しなどに活用し、日本全体の着実かつ効率的な廃炉の実現につなげる。

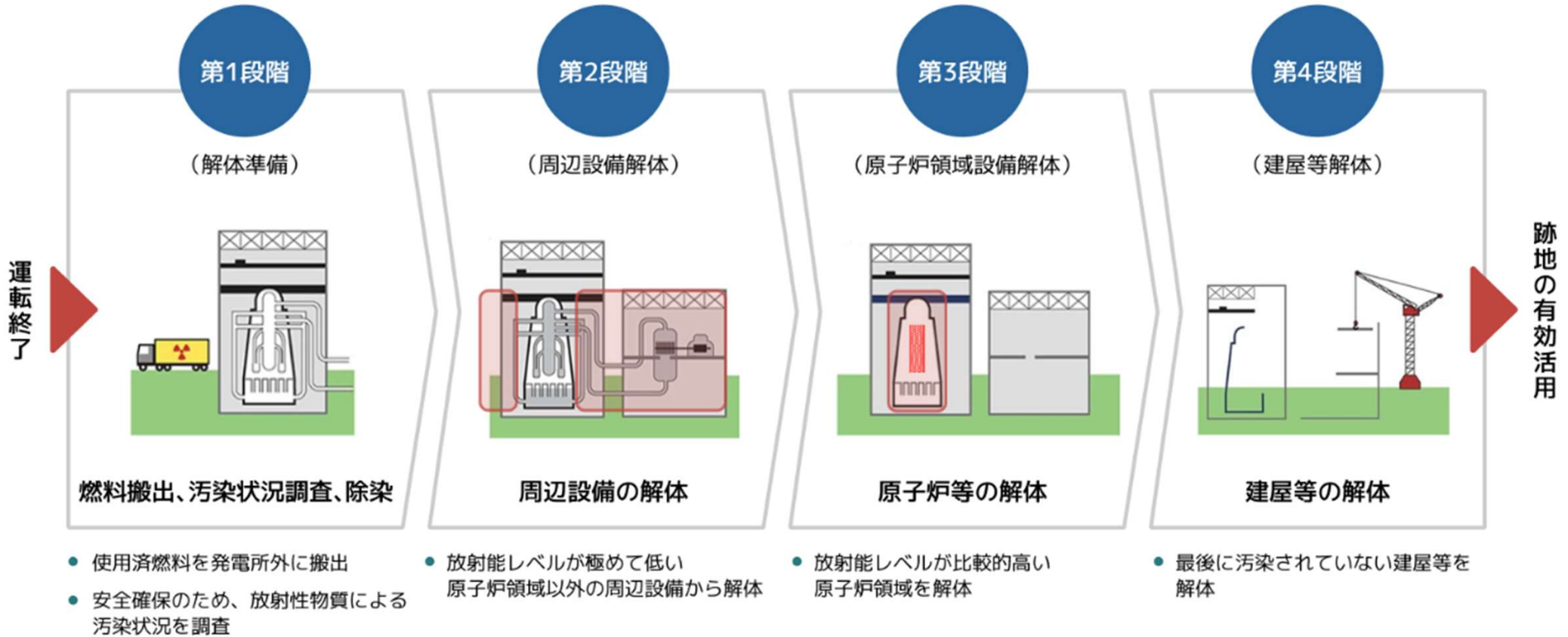


中部電力提供



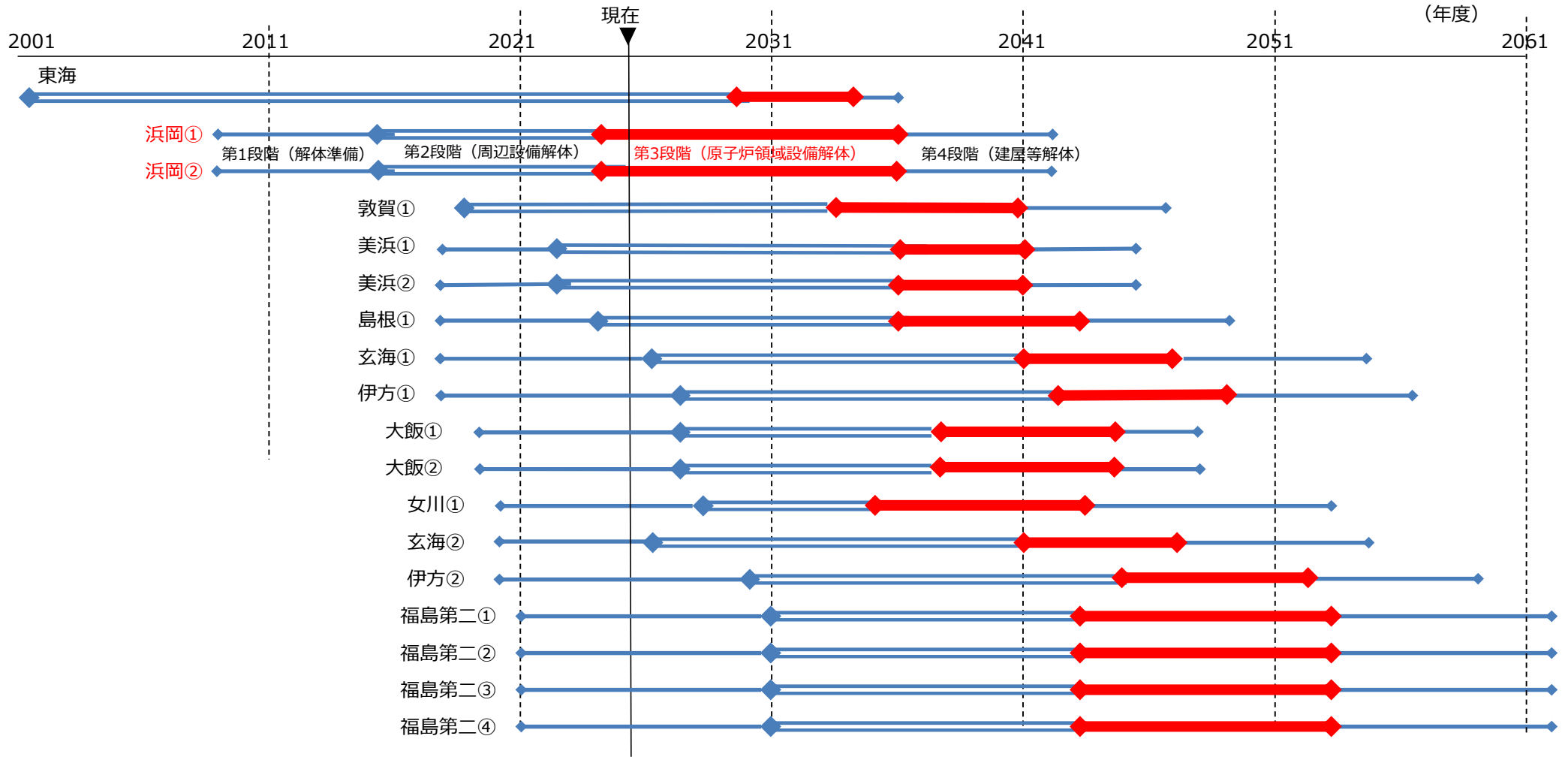
廃炉の工程：大きく4段階に分けて実施

参考1



国内の廃炉スケジュール

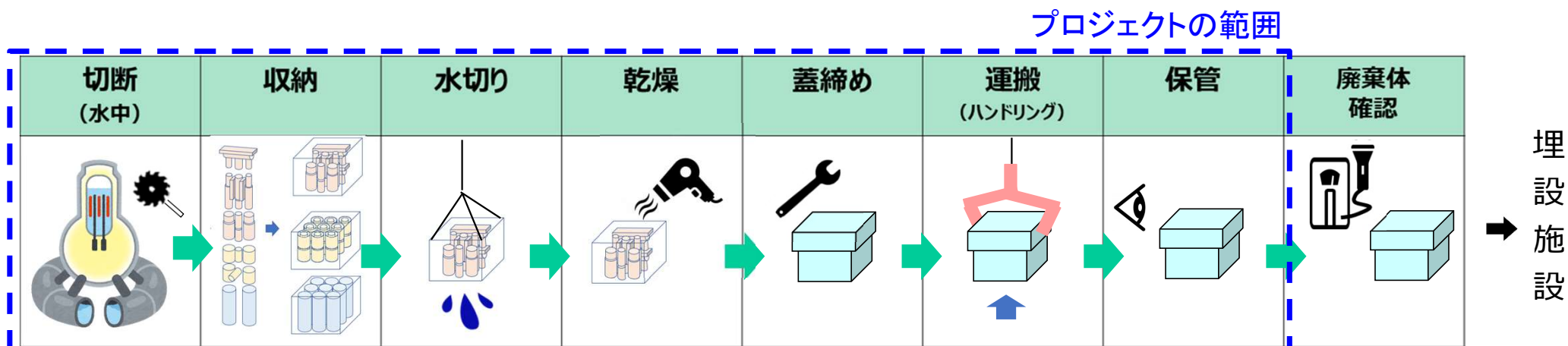
参考2



パイロットプロジェクトでの実施事項

参考3

- 以下の課題検討を行い、それを実機（浜岡原子力発電所2号機）に適用して検証を行う。



想定される課題（例）

- 放射線レベルの高い切断片を容器に収納した後の放射線による影響を少なくする工法の確立
- 容器に収納する切断片の放射エネルギーを適切に評価する方法の確立

実機検証

- 海外実績などを調査し、実際の解体工事で実効性のある解体工法を構築する。
それを実機の解体に適用して検証し、後続プラントでも活用できるようにしていく。
- 放射エネルギーを適切に評価するため、実機解体時にサンプルを採取して放射能の実態を把握する。